

# とめNNだより

令和4年1月発行

第26号



「とめNNだより」は、農業農村整備部(通称NN部)の広報広聴活動の一環として、登米管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせする目的で、年4回発行を予定しております。掲載内容についてお問い合わせ等ありましたら、管理調整班までご連絡ください。

【東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部広報広聴委員会】

## ■令和3年度多面的機能支払交付金に係る草刈の安全作業研修会を開催しました！

令和3年11月19日、登米市津山町柳津幣崎地内で令和3年度の登米管内の多面的機能支払交付金活動の草刈り作業の安全に関する研修会を管内土地改良区職員や活動組織構成員など30名が参加して開催しました。研修会では、近年多発している多面的機能支払交付金活動での草刈り作業時の事故の事例等とその原因について情報提供を行い、各種草刈り機の取扱いのポイント等を説明しました。

草刈り機の基本的な操作方法や安全な使い方のポイントについて、草刈り機械等の販売代理店をしている宮城マッカーの三王氏から実演を交えて説明、参加者は日頃、自己流になりがちな草刈り機の扱い方について基本的な操作を再確認していました。

なお、当日は(株)アテックス社の八重樫氏がハイブリットラジコン草刈機「神刈」(発電用エンジンを搭載してモーター駆動で走行・作業する)の実演を行いました。このラジコン草刈り機は、軽トラックに搭載可能なサイズで機体価格約360万円、法面45度で作業が可能、付属のコントローラーで簡単に操作可能で肩掛け式草刈り機の約15人分の作業能力と聞いて参加者も実際に操作、操縦しました。また、ラジコン草刈り機などの複数の活動組織でのリース使用に際して必要となる交付金の取扱いに関しては、既に広域化して、ラジコン草刈り機をリース使用している登米市豊里町土地改良区の事例等も踏まえて登米市産業経済部農林振興課の担当者から広域化の推進に関する情報も提供しました。

当部では、今後もこのような研修会などとおして、安全な活動の啓発を行っていきます。



▲開会式



▲宮城マッカーによる操作説明



▲宮城マッカーによる実演



▲参加者による

ラジコン草刈機「神刈」の操縦



▲ラジコン草刈機「神刈」実演



## ■山吉田揚水機場の突発事故対応(その2)報告について

令和3年6月に国営造成施設の山吉田揚水機場(登米市米山町)で異音及び振動が発生し、用水期間中に運転を中止しました。(とめNNだより第25号掲載)

その後の詳細調査で故障の原因は、1号ポンプの減速機歯車の破損によるものと判明、東北農政局との協議によって国直轄事業(土地改良施設突発事故復旧事業)で1号ポンプ減速機の復旧を行うことになりました。

現在、農水省では9月16日に復旧工事の契約をクボタ機工(株)東北営業所と請負金額47,850,000円で締結、工期は令和3年9月17日～令和4年3月28日までで、令和4年4月の用水時期に間に合うように東北農政局で工事を担当しています。また、減速機以外にもポンプ部品について異常な摩耗が確認されたことから、部品の交換工事を施設の管理受託者である迫川沿岸土地改良区が発注及び工程管理を行い、年度内完了を目指しています。



▲山吉田揚水機場1号ポンプ  
減速機分解調査状況

## ■令和3年度第2回農業土木職員技術研修会(ため池研修会)を開催しました！

令和3年10月7日に登米合同庁舎で(株)復建技術コンサルタントの技術者を講師に、令和3年度第2回農業土木職員技術研修会(ため池研修会)を開催しました。

宮城県の農業用ため池は約6,000箇所あり、全国で第7位、登米市内においても160箇所以上があり、そのうち16箇所は、防災重点農業用ため池(以下「重点ため池」という)に指定されています。

当日は、「農業用ため池の現状と課題」「ため池堤体の評価」をテーマに行われ、技術面(ため池の設計や地震時の堤体挙動(安定計算)など土質力学に及ぶ範囲)の考え方だけでなく、緊急時における避難行動につなげる対策(ため池マップの整備、ハザードマップの作成等)の必要性を学びました。特に重点ため池は、安全性を評価し、今後どのような対策事業を講じる必要があることを理解しました。現在、登米市と重点ため池の関係者聞き取り及び施設の調査・点検業務を行っており、個々のため池の条件等を整理及び評価をしています。今回の研修を受けて、引き続き、重点ため池の安全性確保に向けた取組を進めていきます。



▲農業土木職員技術研修会の様子

## ■令和3年度第3回農業土木職員技術研修会(軟弱地盤対策研修会)を開催しました！

令和3年11月11日に登米合同庁舎で令和3年度第2回農業土木職員技術研修会を開催しました。第2回と同様、講師は(株)復建技術コンサルタントの技術者に依頼、「軟弱地盤対策(排水樋管の圧密沈下)」をテーマに研修会を開催しました。

研修では、登米管内の代表的な軟弱地盤が形成された年代や背景、周辺の地形をはじめ、軟弱地盤に構造物を設置して圧密沈下の影響を受けたトラブル例や軟弱地盤を判定するための土質調査方法の要点など実際の設計に必要な土質試験の項目について学びました。

この他にも、土質調査方法であるボーリング試験の積算数量算出の方法や、土質試験の数量の算出や委託費積算の要点等について学び、中堅及び若手職員の技術力向上を図りました。



▲農業土木職員技術研修会の様子

## ■伊豆沼周辺地区土地改良区統合整備推進協議会設立総会が開催されました！

令和3年11月29日に登米市役所迫庁舎にて、穴山土地改良区、伊豆沼土地改良区及び新田北部土地改良区の3土地改良区の統合整備に向けた「伊豆沼周辺地区土地改良区統合整備推進協議会設立総会」が開催されました。本協議会は、土地改良区統合へ向けて必要な事項の調査、研究及び協議を行い、統合整備の推進を図り、地域農業の発展に寄与することを目的とするもので、当日は、関係する3土地改良区のほか登米市熊谷市長(会長)、栗原市佐藤市長(副会長)はじめ、宮城県(東部地方振興事務所、東部地方振興事務所登米地域事務所、北部地方振興事務所栗原地域事務所)及び登米市、栗原市、県土地連の関係職員27名が出席し、推進協議会が設置されました。

設立総会の冒頭、伊豆沼土地改良区の安部理事長より、「土地改良区を取り巻く状況は組合員の高齢化や離農など厳しさが増している。一方で土地改良施設の更なる適正管理に備えなければならない。今後、土地改良施設の維持管理団体として中心的役割を担い、組合員の付託に応えるためには、統合整備の推進による運営基盤の強化が必要である。」との挨拶があり、議事については推進協議会規則をはじめとする全議案が原案どおり承認されました。

宮城県(東部地方振興事務所、東部地方振興事務所登米地域事務所、北部地方振興事務所栗原地域事務所)は、3土地改良区の円滑な統合に向け、関係機関と連携し支援を行っていきます。



▲協議会設立総会の様子

## ■伊豆沼2工区地区のレンコン収穫状況について

現在、ほ場整備事業を行っている伊豆沼2工区地区では、一部の農地を活用して、レンコンを栽培しています。今年の伊豆沼2工区地区のレンコン収穫状況を耕作者の方に伺ったところ、今年は天候にも恵まれ、収量については例年以上の収穫があるとのことでした。作業は9月の中旬から翌年の4月まで作付け及び出荷されています。旬の時期は秋から冬にかけてとなっています。秋口に出荷される新レンコンは柔らかくあっさりとしていて、晩秋から冬のはものは粘りが出て甘味も増します。

(有)伊豆沼農産、わかやなぎ農産物直売所くりでん、そのほかお近くのスーパーなどでも販売されているのでぜひお買い求めください。



▲レンコン収穫の様子



宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部 広報広聴委員会 (編集:管理調整班)

～復興へ 頑張ろう！みやぎ～



〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
 Tel : 0220-22-5169 Fax : 0220-22-6015  
 E-mail : [et-tmnbkt@pref.miyagi.lg.jp](mailto:et-tmnbkt@pref.miyagi.lg.jp)  
 URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-ns/>

こちらからも  
アクセス出来ます!!

